

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第18回研究委員会 議事録

1 日 時：2016年1月19日（火） 15：00～17：00

2 場 所：工学院大学 25階会議室

3 出席者：後藤、山本、久田、森、有川、荒木、大森、佐藤、高田（H）、小山（TV）、三上（TV）、村上（H）、奥村（H）、末松（記）

4 資 料：

- 資料 18-1 第18回研究委員会 議事次第
- 資料 18-2 第18回研究委員会 議事録（案）
- 資料 18-3-1 研究委員会 報告書 項目（案）
- 資料 18-3-2 報告書作成について
- 資料 18-3-3 報告書概要
- 資料 18-4-1 津波避難実態調査資料収集分析部会（報告書目次案）
- 資料 18-4-2 中土佐町の避難に関する研究（シミュレーション進捗状況）
- 資料 18-5 都市避難部会（報告書目次案）
- 資料 18-6 避難シミュレーション部会（報告書目次案）
- 資料 18-7 報告会の企画（案）
- 資料 18-8 予算の執行状況（2015.12.31現在）

5 議事内容

5.1 議事録確認

- ・荒木委員より第17回研究委員会の議事録案 18-2 の説明が行われ、内容の了解を得た。

5.2 報告書作成について

- ・目次案資料 18-3-1 については、特段に意見もなく承諾された。
- ・2/19までに一次原稿提出、3/1までに幹事会にて確認し修正依頼、3/18までに各部会で修正。
- ・データ等の参考資料は収録CDを巻末に添付する。各部会15～30P程度で全100P程度。
- ・後藤委員長から提示された報告書概要資料 18-3-2 は各部会で確認し、修正すること。

5.3 各部会からの報告

(1)津波避難実態調査部会

- ・佐藤委員から資料 18-4-1 に基づき報告があった。また、以下の意見、質疑があった。
 - ・今後の課題や実施する内容については、その根拠と実行を示す必要がある。
- ・有川委員から資料 18-4-2 に基づき報告があった。以下の意見、質疑があった。
 - ・避難場所の収容人数を確認しておく。
 - ・侵水深を含め、河川情報等を収集、確認する必要がある。
 - ・避難手段は徒歩のみで車は考慮していない。

(2)都市避難部会

- ・久田委員から資料 18-5 に基づき報告があった。また、以下の意見、質疑があった。
- ・新宿と北千住を対象にマルチハザード、オールハザードの対応の必要性を主眼にまとめる。
- ・既存の論文をベースにまとめていくこととする。

(3)避難シミュレーション部会

- ・荒木委員から資料 18-6 に基づき報告があった。また、以下の意見、質疑があった。
- ・V&V の各実施中 8 機関の進捗が遅れており、予定していた 1/22 の検討会は延期。
- ・2 月中旬まで結果受理を延期して、今年度中にできたところから順次対応していく。
- ・結果は WEB に UP していく。
- ・報告書は奥村先生に執筆頂いた先行 4 機関（東大、京大、構造計画、ベクトル総研）の結果の報告論文をベースにしていく。
- ・震災対策技術展での講演について
- ・2/5 横浜で開催のセミナーでは、東北大桑原先生（専門：道路交通シミュレーション）に基調講演をお願いしている。

(4)国際交流部会

- ・村上委員から Google Hangouts を通じて、報告があった。また、以下の意見、質疑があった。
- ・各委員が参画しているタイ、チリ、スマトラ島などでの海外研究を通じてとりまとめていく。
- ・この 2 年間の文献調査も掲載してもらいたい。
- ・世界地震工学会（WCEE）でオーガナイズドセッションを提案し、開催国のチリの研究者との打ち合わせを進めている。へ

5.4 報告会の企画

- ・山本委員、後藤委員長から資料 18-7 に基づき報告があった。また、以下の意見、質疑があった。
- ・テーマ案「あるべき避難行動の障害を克服するためには」
- ・2016 年 5 月中旬を予定。参加人数 30~60 人を想定しているが、各委員には呼びかけの努力をしてほしい。
- ・各部会からの報告だけでは統一感がないので、何か 1 つテーマを決めた方がわかり易い。

5.5 予算の執行状況

- ・山本委員から資料 18-7 に基づき報告があった。また、以下の意見、質疑があった。
- ・資料に示された支出、収入実績について意見はなかった。
- ・横浜セミナーの荒木、末松の講師謝金は支給しない。
- ・中土佐町への佐藤委員、後藤委員長の旅費は会費から支出する。

6 講演

小山委員より「東日本大震災における福島県内市町村を対象とした避難ルート特性と死亡率について」と題して、ご講演頂いた。講演後、また、以下の質疑があった。

- ・福島県と他県との特性の違いはあるのか。⇒他県のデータ収集が十分ではなく、できていない。
- ・原発付近での避難特性はあるのか。⇒事故後の立ち入り制限のため、できていない。
- ・避難経路の調査データはあるのか。⇒復興支援調査アーカイブの利用が可能かもしれない。

以上